

<b>1 学校教育目標</b> 校訓:「質実剛健、明浄真正」 スローガン:「チャレンジ! 佐農生」 教育目標:「農業の専門教育を柱とし、様々な教育活動を通して、地域や社会に貢献できる有為な人材を育成する。」	<b>2 本年度の重点目標</b> (1)学力の向上と進路実現 (2)専門性を活かした特色ある取り組みの推進 (3)学校PRと学校情報の発信 (4)働き方改革の推進
---	--

達成度 A: ほぼ達成できた  
 B: 概ね達成できた  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①学力の向上と進路実現							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	○夢や目標に向かって努力しようという気持ちを育て、生徒一人ひとりの進路実現を図る。	・希望進路実現100%を目指す。 ・職員間の連携を図り、生徒との信頼関係をより確かなものにする。	・講演会、学校行事・部活動を通じ、生徒たちに目標に向かってチャレンジする気持ちを醸成する。 ・全職員で進路希望把握に努め、進路実現に向けた支援に取り組む。	B	・「夢」や「目標」を持って、学校生活を送れたという生徒が76.4%であった。 ・3年生の希望進路実現は100%であったが、2次応募や進路変更等で決定した生徒もであった。 ・進路指導部と3学年を中心に全職員が連携・協力して進路指導をすることができた。 ・生徒の進路意識の高まりには、SGH研究指定の効果があるといえる。	・学校生活を送るうえで、志(夢や目標)設定するという意識付けをさらに強化したい。 ・進路実現にあたっては、全職員で取り組むという意識をさらに全職員に浸透させ、組織作りや連携強化を図っていきたい。 ・SGHの研修指定は来年度までであるが、グローバル教育の継続によって将来の夢や進路意識の向上に繋げていきたい。
	●学力向上	○教職員の教科指導力向上を目指す。 ○基礎学力や一般常識の定着を図る。	・授業時数を確保し、実施時間80%以上を目指す。 ・授業公開週間等を実施し教科指導内容を検討する。 ・基礎学力診断テストによる生徒の学力把握と授業・カリキュラムの改善に取り組む。 ・朝の学習(原則毎日)やプチテスト(毎週1回)の時間を確保し、学習習慣を身につける。	・行事の精選・見直しを図り、授業時間確保に努める。 ・年に2回実施し各教職員で意見交換することで授業改善に取り組む。 ・基礎学力診断テストの結果について、講師を招いて分析し、生徒の実情に適したカリキュラムと授業改善に活用する。 ・ICT教材を活用して基礎・基本の定着を図り、プチテスト等の不合格者を0にする。特に漢字テストでは年間平均19.5以上取得率を各学年20%を目指す。	B	・基礎学力を身につけるために前向きに学習に取り組む事ができた生徒は82.8%であった。 ・実施時間を確保し、授業公開週間等を活用し、授業力のUPに繋がった。毎朝の学習の時間で基礎学力診断テストやプチテストを実施し、基礎学力を付け、学習習慣を付けるために一定の効果がでている。 ・ICTの利活用もほとんどの授業で活用することができている。	・授業時数の確保を図る中で、授業公開の機会や参観者を増やし、授業改善や授業力の向上に繋がりたい。 ・「基礎力診断テスト」、朝の学びの時間、プチテスト等は一定の成果があり、継続・充実するなかで、基礎学力や学習習慣の定着をさらに図りたい。 ・ICTの利活用については、かなり進んでいる方であるが、まだまだ個人差もあるため、授業公開や研修等を通して、利活用の推進に力を入れたい。
②専門性を活かした特色ある取り組みの推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○専門性を生かした教育の実践。 ○地域連携・地域貢献。	○農業の専門教育における「固有の価値観」を身に付けさせ、「人間性豊かで逞しい社会人」を育てる。 ○地域資源を活用した特徴ある取り組みの実践と地域連携・地域貢献を推進する。	・所属学科の専門学習への興味関心度を90%以上にさせる。 ・研究活動等の成果発表の場である農業クラブ県大会で3学科の入賞を目指す。	・実験実習の内容改善に努め、普及センターや地域農業関連機関と連携しながら魅力ある授業を展開する。 ・県大会入賞を目標に設定することで、専門教科担当職員と生徒の意識向上を図り、生徒たちの探求心を喚起することで、質を高めた地域密着型研究活動を実践する。	A	・専門科目の学習に興味・感心をもって取り組むことができた生徒が90.2%であった。 ・各科の特徴を活かし、地域と連携した取り組みを多く実施することができた。 ・農業クラブの県連大会では、測量競技、鑑定競技で全国大会に出場することができた。発表部門ではできなかった。 ・高校生カフェを江北町から白石町への移管を図ることができた。	・地域との様々な連携のなかで各科の特徴を活かした取り組みができており、その成果は大きい。精選や内容の見直し、新たな取り組み等を検討したい。 ・来年度は県連の事務局校でもあり、農業クラブ競技では、発表部門での入賞を果たしたい。 ・来年度は、ドローンを使った教育を取り入れる予定であり、スマート農業の教育や学校PR等に活かしていきたい。
	○SGH研究の推進。	○農業高校の専門性を活かしたスーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)研究推進と改善を図る。	・農業の専門分野におけるグローバルリーダーの育成を目指す。 ・課題研究をはじめとしたSGH事業の評価について検討する。 ・全教科でSGH事業に関わる教育プログラムの開発を行う。	・国内外研修や外国人との交流会を通して、グローバルな観点から農業の課題解決に意欲的に取り組む生徒数を増やす。 ・様々な評価方法を検討し、生徒や学校の変容を把握して、SGH事業の改善につなげる。 ・校内組織や役割分担を明確にするとともに、学科間や教科間で協働した、教科横断的な教育プログラムの開発を行う。	A	・SGH活動をとらえて視野が広がり異文化に興味・感心が高まったという生徒が67.0%であった。進路意識にも影響が見られる。 ・SGH研究指定は4年目を迎え、指定が終わる令和3年以降の教育課程の継続に向けて検討や準備を行うことができた。 ・予算の削減等で海外フィールドワークの場所を変更したが、研究の深化にはさほど影響がなく充実した研修ができた。	・来年度は研究指定の最終年度であるため、5年間の研究成果を総括するとともに、指定終了以降(R3~)の本校教育におけるグローバル教育を継続させる体制を検討・整備する。 ・生徒の異文化体験や語学力向上のために、海外フィールドワークに変わるものとして、海外修学旅行を検討する。
③学校PRと学校情報の発信							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○魅力ある佐農づくりの推進。	○様々な教育活動を学校情報として適宜発信し、学校のPRやイメージアップに努める。	・月1回以上の学校だより発行を目指す。 ・HPの更新を行う。 ・学校PRについて検討し、新たな取り組みを行う。	・広報部を中心に学校行事や各学科・学年の取り組みをまとめ、月1回、関係機関や保護者へ配布する。 ・HP担当者を位置づけ、月1回以上の更新を目指す。 ・新たに学校紹介ポスターを作り、関係中学校に掲示する。	B	・学校の特徴や魅力を十分に発信できていると感じている生徒が85.7%、職員が89.5%であった。 ・学校の特徴を洗い出し、学校説明プレゼンのリニューアル、学校PR用のポスター(2種類)の作成を行い、中学校へのPRを行った。 ・中学校の進路希望調査でも高い数値を(第2回:1.18)出すことができた。	・地区的にも中学生数の減少は厳しい状況が続いており、引き続き募集に繋がる魅力ある取り組みや学校PRには危機感をもって取り組まなければならない。 ・学校説明用プレゼンやポスターは、中学生や保護者の感心を引きつけられるように、さらに工夫や改善をしたい。 ・学校のセールスポイントを今一度洗い直すとともに、新たな魅力ある取り組みを行いたい。
④働き方改革の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改革・教職員の働き方改革の推進	○業務改善や環境整備、部活動の適正化等に取り組む、時間外勤務を削減を目指す。 ○効果的な教育活動を行い、健康で働きやすい職場づくりに努める。	・定時退勤日の設置と年休取得を推進する。 ・時間外勤務時間が原因の追究し改善策を検討する。 ・環境整備と働きやすい職場づくりの提供に努める。	・定時退勤日を週1回(水曜日)設け、また月1日以上年休取得を推進する。 ・月40時間を超える職員の削減に向け各職員(担当)の業務内容の見直し、学校全体で改善を図る。 ・職場巡回(月1回以上)を実施し、環境整備に努める。	C	・始業時間を10分間遅らせ、火曜日は職員朝礼をしないことで、ゆとりができた。 ・年休の予約表を設置し、年休が取りやすくなり、管理の効率化が図れた。 ・執務室の不要品の整理を行った。 ・職場環境の改善を行った。 ・職員の意識改革の浸透や、部活動指導の見直し、行事の精選等はさほど進んでいない。	・定時退勤の推進、年休の取得を推進していく。 ・時間外勤務時間が原因の追究し改善策を検討する。 ・部活動の適正指導や分担体制について改善を勧める。 ・職場の環境整備と働きやすい職場づくりをさらに推し進める。

⑤本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●心の教育	○「地域を誇りに思う心」や「感謝する心」を育む。	・地域の清掃奉仕活動を行うことで、「他人を思いやる心や社会貢献の精神」「美しいものや自然に感動する心など柔らかな感性」等の育成を図る。	・全校ボランティア活動やプロジェクト活動の推進により、地域の魅力や佐賀の自然に触れる機会を増やす。	B	・学校での学習活動やボランティア活動を通して「思いやり」「やさしさ」が深まったと答えた生徒が88.0%であった。 ・地域との連携事業や交流活動を通して、地域を誇りに思う心や感謝する心が醸成できている。	・ボランティア活動(奉仕活動)を実施し、「思いやり」「やさしさ」を育てていきたい。 ・農業の持つ教育力を活かして、学習や体験を通して、「地域を誇りに思う心」や「感謝する心」を育てていきたい。
	●いじめ問題への対応	○人権を尊ぶ心の教育と未然防止に努める。 ○早期発見・早期対応体制づくりを図る。	・学習活動や人権同和教育を実施し、心の教育を推進する。 ・相談しやすい体制を整え、職員・家庭との連携によるいじめ等の問題の早期発見を目指す。	・農業教育を通して生き物を大切にすることを育てたり、人権について考える時間を設定する。 ・相談窓口を明確にし、相談しやすい環境を整える。また、日ごろから生徒の些細な変化も逃さず、職員・保護者と連携し、問題の早期発見と早期対応に努める。	C	「いじめ」の認知12件、認知6件であった。 ・「いじめを許さない」という気持ちを持った生徒は93.0%であった。 ・「いじめ」や「悩み事」を相談しやすい生徒は70.3%であった。 ・初期対応が不適切で、その後の対応に苦慮した事例があった。	・学期ごとの調査の他、日頃の観察や声かけ等をこまめにし、早期発見・早期対応に心がけなければならない。 ・職員の生徒指導における教育相談的手法を取り入れた指導への意識改革を図りたい。
	●健康・体づくり	○健全な食習慣や生活習慣の定着を図る。	・健全な食習慣や生活習慣の大切さを生徒主体で啓発させる。	・保健たよりや生徒保健委員会の活動を通して、生徒の視点から、健康のために正しい食習慣や生活習慣がどのように大切であるかを啓発する。	B	食事、運動、睡眠等に気をつけ、健康で規則正しい生活ができていると答えた生徒が74.3%であった。	・本校では、部活動の他、農業実習や専門の研究活動等で体を動かすことが多く、身体や体力づくりはできているのではないかと考える。健康な食習慣や生活習慣を身につけるための指導をしていきたい。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

多くの生徒が志(夢や目標)を設定して学校生活を送ることができており、引き続き指導に力を入れていきたい。学びの時間等により基礎学力や一般常識の定着はかなりできてきているが、家庭での学習習慣の定着を図りたい。農業3学科のそれぞれの専門性を活かした教育や取り組みができていく。佐賀県農業教育の中心校として、引き続き発展・充実をさせるとともに、情報発信等にも力を入れたい。SGHの研究指定が4年を経過したが、最終年度には、研究の総括と終了後(R3以降)のグローバル教育の維持体制を作りたい。中学校生徒数の減少に対する生徒募集は引き続き課題であり、学校の魅力発信やPRに力を入れていきたい。多くの生徒が「思いやり」や「やさしさ」、「いじめを絶対許さない」という意識を持って学校生活を送ることができているが、「いじめ」の事案が多数発生しており、早期発見・早期対応に努めるとともに、相談しやすい環境作りにも力を入れたい。本年度の生徒の学校満足度は、85.1%であり、90%以上を目標としたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目